

グループワーク議事録② 【活動】グループ

- 【カード 13：練習でのホール利用】
- 【カード 17：部活動の第 2 拠点としての活用】
- 【カード 18：個人や数人での練習活動】

- ・ いずれも市民の具体的な使い方・使いやすさに直結する事業。
- ・ 学校内では、楽器などの練習ができる場所が不足している。
- ・ ただし、まずは基盤となる「発表の場」を整備することが優先ではないか。【カード 14：100 人規模の発表の場】や【カード 15：500 人規模の発表の場】が示す「発表の場」の選択肢を確保した後に、その上で具体的にどのような活動が可能になるのか検討する必要があると考える。
- ・ 市内には、鏡張りでダンスの練習ができる場所がほとんどない。例えば、練習等で使える空間に鏡張りの機能を備えることで、ダンス練習にも対応できるようになり、幅広い使い方が可能になるとを考えられる。また、旭川市には習い事をしている方が多く、音楽やダンス、お子さんの習い事などにも自然につながっていく可能性がある。
- ・ 諸室の規模を定める際には、市内他施設の規模や利用率を踏まえ、需要はあるが他施設にない規模感や、人気があり予約が常に埋まっている規模感の室を補完する等の考え方もあると思う。

- 【カード 14：100 人規模の発表の場】
- 【カード 15：500 人規模の発表の場】

- ・ 施設の規模に直結し、「この施設で何ができるか」という点を最も端的に定める事業であることから、重要度は高い。
- ・ 規模の異なる「発表の場」があることで、様々な規模の活動が生まれ、多様性が高まると思う。
- ・ 道北地域における「文化交流活動の拠点」として、1,500～2,000 人規模の大ホールを整備することは大前提であると思う。
- ・ 公会堂での活動を継承することも考えると、500～800 人規模のホールを持つ必要があると思う。
- ・ 音楽関係での利用を考えると、最も需要が高いのは、100 人規模のホール機能であると思う。同程度の規模感の市内他施設として、180 人規模の CoCoDe、100 人規模の木楽輪などがあり、いずれも人気がある。
- ・ 札幌文化芸術劇場 hitaru をはじめ、多くのホールでは客席が複数階に分かれしており、1 階席のみ使用すること等が可能になっている。一つのホールが様々な規模に対応できることは、対応できる活動の選択肢を広めるとともに、施設の稼働率を高めることにもつながっていると思う。
- ・ まずは「発表の場」として、音響性能などを有するホール機能を、様々な規模感に対応できる形で確保することを優先すべきであり、その後、他の様々な活動（練習や文化芸術以外の活動など）への対応について模索していくべきなのでは。

➤ 【カード 16：複数展示会の同時開催】

➤ 【カード 21：文化芸術の学びを深める場】

- ・ 文化芸術・デザイン都市旭川としての発信につながる取り組みである。
- ・ 旭川においても、「デザイン都市」として少しずつ動きが見られ、芸術とは異なるが、デザインの力でまちづくりを進めていくこうとする流れがある。
- ・ 卒業制作展や各業界団体の活動などを通じて、デザインという一つの枠組みのもとで、こうした動きをまとめ、広げていく担い手がいれば、より大きな展開につながるのではないか。

➤ 【カード 19：舞台制作に関する知識・技術の継承】

➤ 【カード 20：プロと市民による共演事業】

- ・ 学校では先生から学ぶ機会はあるが、プロとともに活動する経験は得にくい。だからこそ、こうした事業を実現できれば、新文化ホールならではの価値につながると思う。
- ・ 【カード 14：100人規模の発表の場】や【カード 15：500人規模の発表の場】は、ハード整備に直接影響することから特に重要性が高いと思うが、【カード 19：舞台制作に関する知識・技術の継承】や【カード 20：プロと市民による共演事業】については、ハード整備との関係性が想像しづらく、むしろ整備されたハードに合わせて事業内容を検討する形になるのでは。
- ・ 「施設を将来にわたって維持・継続していく」という視点で必要性があるのならば、意義深い事業になると思う。

➤ 【カード 21：文化芸術の学びを深める場】

➤ 【カード 22：自由に学び、交流を深める場】

- ・ 文化芸術・デザイン都市旭川としての発信につながる事業。
- ・ これまでの市民文化会館は「発表の場」のイメージが強かったが、それだけでなく、「デザイン都市・旭川」という文脈の中で、デザインを学び、練習し、実践できる拠点としての役割も担えると良い。
- ・ 発表の場とあわせて、「学び」と「育成」に関連する事業が並行して存在することが重要。
- ・ デザインに関係する業界の方々は、世界に発信していきたいと考えていると思う。

➤ 【カード 22：自由に学び、交流を深める場】

- ・ 新文化ホールの核となるのは、ホールを用いた「鑑賞」「活動」になるということを前提としつつも、例示された「まちなかキャンパス」のように、文化芸術に限定されず、様々な属性の方が訪れるような「活動」ができる場になってほしい。
- ・ 「活動」することが「発信」することにもつながる場となってほしい。そのためには、複数の活動予定が同時に入っても使用できるよう、複数の空間があると良い。
- ・ 自由に活動・発信できる場があることで、特定の目的を持つ人だけでなく、様々な年齢・性別の人人が滞在しやすくなり、「交流」にもつながるのでは。

➤ 【カード 23：早朝や夜間などの開館】

- ・ 学生の勉強などの利用が想定できる一方、利用者層が限定される可能性もある。
- ・ 施設内に食事できる場所を設け、通勤時に利用してもらうといったこと等も考えられるのでは。
- ・ 事業例にある「六本木ヒルズ」周辺は夜にこそ賑わう街だと思うが、旭川市の場合はどの程度の需要があるのか、実態を踏まえて検討する必要がある。
- ・ より具体的な「運営方法」として整理・位置付けられる項目。